

(様式第 1 号)

平成 2 5 年度 第 3 回芦屋市子ども・子育て会議 会議録

日 時	平成 2 5 年 1 2 月 2 3 日 (月) 1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0
場 所	芦屋市役所 北館 4 階 教育委員会室
出 席 者	会 長 大方 美香 委 員 下岡 きみ代 委 員 飯田 眞美 委 員 金光 文代 委 員 山本 眞 委 員 安里 知陽 委 員 有馬 直美 委 員 友廣 剛 委 員 加納 多恵子 委 員 半田 孝代 委 員 守上 三奈子 委 員 橋本 亮一 委 員 三柴 哲也 委 員 藤原 寛子 委 員 北川 知子 委 員 伊田 義信 委 員 津村 直行 欠席委員 寺見 陽子 欠席委員 末谷 満 欠席委員 英 真希子 事務局 こども政策課長 宮本 雅代 こども政策課主幹 高橋 弘美 こども政策課係長 田中 孝之 こども政策課主査 山中 朱美 こども政策課主事 井村 元泰
事 務 局	こども・健康部こども政策課
会議の公開	公 開
傍 聴 者 数	2 8 人

1 会議次第

<開会>

- (1) 開会の挨拶
- (2) 会議運営上の説明

<議題>

- (1) アンケート集計速報（報告）
- (2) 基準検討部会、支援事業部会で出た意見（報告）
- (3) 芦屋市子ども・子育て支援事業計画素案策定（協議）
- (4) その他連絡事項

<閉会>

閉会の挨拶

2 提出資料

- 資料1 「子育て支援に関するアンケート調査」について
- 資料2 芦屋市子ども・子育て支援事業計画（骨子案）
- 資料3 芦屋市子ども・子育て支援事業計画の策定方針（スキーム）

3 審議経過

<開会>

- (1) 開会の挨拶
【事務局より挨拶】

- (2) 会議運営上の説明

【事務局より会議の運営等について説明】

- (3) 資料の確認

【事務局より資料確認】

<議事>

- (1) アンケート集計速報（報告）

（ 会 長 ） 資料1について事務局からご報告をお願いします。こちらは速報ですから、全てではなく、今後こちらをたたき台にしてクロス集計などを事務局で細かくしていただけたと思います。簡単にポイントだけをご説明いただければと思います。

【事務局より資料説明（基本情報について）】

（ 会 長 ） ありがとうございます。ご質問、ご意見はありますか。アンケートの回収率が議論になりましたが、何とか5割を超え、特に就学前が6割を超えてきましたのである一定の数値にはなったかと思います。では、次の項目、就労についてお願いします。

【事務局より資料説明（就労について）】

（会 長）ありがとうございます。この就労については芦屋市の特徴も出ているかと思えます。ご意見、ご質問はありますか。ないようであれば次の説明をお願いします。

【事務局より資料説明（平日の定期的な教育・保育利用状況について）】

（会 長）ありがとうございます。何かご意見などありますか。

（守上委員）認定こども園とはどこのことですか。

（事務局）今、芦屋市には認定こども園はありませんので、西宮や神戸の認定こども園を利用されているのではないかと思います。

（半田委員）認定こども園について、アンケート回答者は十分理解しているのでしょうか。

（事務局）最後に認定こども園のところでもご説明いたしますが、理解できていない方もおられるのは事実です。ただ、このアンケートを説明するときに公立の幼稚園と認可保育所で説明会を開催していますので、その話を聞いていただいた方は認定こども園のことを理解したうえで選んでいただいていると想定しています。

（会 長）0，1，2歳児で認可外の保育施設の利用が高い率になっているのは芦屋市の特徴だと思いますが、認可外保育施設というのはどういったものですか。

（事務局）細かい分析はできていませんが、認可外保育施設は、保育所に入れない待機児童が利用しているのが現状です。それが0，1歳児に多いのではないかと想定しています。2歳くらいになって認可外保育施設が増えるのは、認可外保育施設の中には幼児教室的なところがありますので、教育熱心なご家庭が多いので2歳くらいから幼児教室的な認可外保育施設を利用しているのも一定事実としてあります。

（会 長）ありがとうございます。認可外保育施設のイメージが幅広いので、幼児教室的な要素、家庭的な要素や福祉的な要素等認可外の施設と一括りにしても各々ずいぶん違いますので、この辺は詳しく分析をしていかないと必要度も違ってくると思います。ベビーシッターも乳児のところが少ないとはいえ、芦屋市は他市よりも早くからベビーシッター事業が始まっていると思いますので、保育所に通わせずベビーシッター等で0，1，2歳児のケアをしている方もいらっしゃるかもしれません。認定こども園に関しても、0，1，2歳児では利用していないが興味や関心の高い方が多く見られるので、こちらも分析をしないといけないと思います。教育・保育の内容が希望に合うとか、教育・保育者の質が高いということが非常に意識されているところも今後の課題とも言えるし、逆に言えば質が高いことに満足されて芦屋市に住んでいるとも言えるかと思います。11ページのどの年齢の方が書いているかは分かりませんが、もしかしたら次世代の方々は幼稚園ではお弁当よりも給食を希望する方が多いのかもしれないかもしれませんし、預かり保育も今までは希望しない方が多かったけれど、たまにはお願いしたい方が増えているのかもしれないかもしれません。少し特徴的な項目では挙がっていますので、現在通われている方か次世代の方か、どの年齢の方が書かれたのかを見ておかないといけないかと思います。皆さん何かありますか。では次お願いします。

【事務局より資料説明（地域子育て支援事業，一時預かり事業，病児・病後児保育事業，子育て短期支援事業について）】

(会 長) 子ども・子育て支援事業についていかがでしょうか。これも芦屋市の特徴かもしれませんが、16ページの保護者が何かあったときに親族・知人にみてもらった割合が高くなっています。ただ全てではないので、逆に預ける人がいない方にとって芦屋市はどんなまちなのかを考えておかないと、結果的に他市の方が融通が利くので住みやすく、芦屋市は住みにくいまちというイメージを持たれ、市民が減ってしまうことになるかもしれません。今後のまちづくりとして、どんどんいろいろな人に来てもらいたいのか、多様性をもっていくのかということをよく考えて分析をしていかないと、今までの芦屋市で良いのか、変えていくなれば何が足りないか、量的調査の結果としては重要な視点だと思います。16ページでも「仕方なく子どもを同行させた」、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」という方が何割かいますが、どういう方が仕方なく子どもだけで留守番をさせる結果になったのか、仕方なく同行させた方はどういう立場であったのかを、クロス集計で出てくるかはわかりませんが、今後増えていくかもしれませんのでその対策を考え、みてもらえる人が多いという議論だけで終わらないようにしていただけたらと思います。

(半田委員) 12ページについて「むくむく」は市民の方がたくさん来ているイメージだったのですが、芦屋全体ではあまり多くないような感じがしました。また民生委員では「あいあいルーム」というものをやっているのもこれも集計にあげて挙げただければと思います。

(会 長) その地域では多いが、全体では少ないということですね。利用者が多くても地形の問題や自宅のそばにないために、子どもが小さければ小さいほど行きたいけれど行けなくなっているかもしれません。その地域の人が利用しているのか他からも利用しているのかを分析しておかないといけないと思います。

(北川委員) 「むくむく」の利用が0～1歳児が3割でそれ以降が減るのは、「むくむく」は小さい子に合わせているので大きくなると行きにくいからだと思います。2歳児になると行く所があまりなく困っていて、民間の幼児教室を選ばざるを得ないというのが現状です。0、1歳児は母親達と関わりを作りたいと頑張って行きますが、年齢が高くなると、小さい子を怪我させてはいけないなど気を使うようになり、通う友達もどんどん減り、車でしか行けない立地だと駐車場が満車になっていることが多く、他の離れた駐車場を探してまでは来ないと思います。0、1歳児が多いのは多分そこが原因かだと思います。事業自体も開放するだけではなく、行事を取り入れたり工夫があればもっと幅広い方がたくさん利用すると思います。

(会 長) ありがとうございます。なぜ2歳児で減っているのか。今は0、1歳児の需要が多いので、中身の内容もそこに焦点を合わせてしまい、いろいろな問題が出ているのだと思います。そういう視点で分析すると見え方が違ってきますから、皆さんご意見をお願いします。では次をお願いします。

【事務局より資料説明（放課後児童健全育成事業について）】

(会 長) 圧倒的に習い事が多いです。他の市では考えられないくらいだと思います。

(友廣委員) 習い事は確かに多いかもしれませんが、4年生以上の学童保育をしていないので、習い事に行かせないと仕方がないというのがあります。過ごさせたいかという聞き方は、もしかしたら習い事をさせたいという親の希望もあるのかもしれま

せんが、私の場合は行かせないと仕方がないという状態でした。私の子どもが入った時は午後5時まで、冬場は午後4時半までしかなかったので、習い事に行かせないと仕方がないという選択肢しかなかったというのがありました。このアンケートの数字が全てかと言うとそうではないと思いますし、親の希望は習い事、もしくは自宅にいて欲しいのですが、子ども達にとってはどうかということは考えなくてはいけないかと思います。

(会長) 3年生までしかなかったので仕方がないという考え方も当然あるかと思います。家においておくより塾や習い事の方が、夜9時までいてある意味安全安心で、そこで宿題もしてもらってという発想も親としては当然あるかと思います。そこも含めてのご意見だと思います。

(友廣委員) 行ってみないとわからないですが、学童保育というところは、私は行かせて初めて分かったことですが、子ども達にとってすごくいい環境です。学校が終わると普通、放課後には近所で遊ぶとか友達同士で遊ぶとか色々な経験をさせていかなければなりません、多分今はそれがだいぶ減っています。地域での遊びや人間関係をつくる場が少なくなっているのも、唯一学童保育ではいろいろな学年の子が一緒になって遊ぶことができる場所なのです。そういう意味では学童保育の場は大切にしたい方がいいかと思います。そこは質や内容など親の希望とは少し違うかもしれませんが、子どもにとってはその方がいいかと思います。

(会長) 学童保育の内容は各市町村、担当者によっても違いますので、その内容が変わることによって習い事ではなく、そこを利用するという考えが保護者にもあるかもしれません。子どもの立場からすると自由でいいが、保護者としては宿題をする環境にはなにくいので家にいてくれた方がいいと、中身によって利用の選択状況が違うのでその辺もしっかり見ないといけないですね。次お願いします。

【事務局より資料説明（子育て施策について）】

(会長) 芦屋市では満足されている方もいますが、結果的に不満な方もいるということですね。このあたりは真摯にとらえてどうしていくか、次の計画にどう盛り込んでいくかが大事ですね。では次お願いします。

【事務局より資料説明（認定こども園について）】

(会長) ありがとうございます。今のところで何かありますか。

(友廣委員) 認定こども園についてどの程度知っているのか、実体験がないものについて良いとか悪いと言えるのかと思います。紙に書いてある説明には悪いことは書かないだろうし、それを見て希望しますという人は本当にいるのかと思います。

(有馬委員) 実際に認定こども園についての説明を聞いた保護者の意見を聞く機会があったのですが、説明を聞いてもあまり理解ができていない感じです。芦屋市の就学前の教育について、どのようなことが起きているかということも知らない中で、認定こども園の良し悪しを保護者は判断できません。今説明を聞いた中で40～70パーセントの方が認定こども園について興味を持っているということですが、実際私が保護者の話を聞いた中ではあまりそういう感じは伝わってこないのが現状です。

(安里委員) 認定こども園に興味がある人達、小さい子をお持ちの方は保育所や認可外保育

園に入れている人はどれくらい興味があるのかなと思います。実際、家庭で保育をしている働いていない人が認定こども園を一つの子どもの教育の場所として期待しているのか、それとも現時点でどこかに入れていてスタイルの違うものを期待しているのかがわかったらいいと思います。パートで働いている人が幼稚園に入れていて、フルタイムにすると保育所になるというのを聞いたことがあります。認定こども園なら入れたいが保育所はということを言う方もいます。公立幼稚園が4歳児からなのでそれまで認定こども園に入れる、その辺の期待度の種類が違うのではないかと思います。

(会長) その辺もクロス集計していかないといけない視点だと思います。在宅で幼稚園とと思っている方はそのまま専業主婦でいるかもしれないし、今後仕事をしたいが途中でかわれないという方の期待度になっている可能性もあると思います。実際体験したらどうかというのはまだわからないですが。

(藤原委員) 私も親の立場からすると認定こども園は不安です。長く預かってもらえて、幼稚園的にも利用できるという部分ではメリットがあるという感じですが、子どもの立場に立った場合、認定こども園としてメリットだけでなく、デメリットとしてどういうことがあるのかを検証していかないといけないと思います。安全面や子どもの心のケアも全て含めて、細かいところまで全て検証したうえで認定こども園をつくらないといけません。認定こども園については親の立場だけで聞くとすごくいいような気がするので、子どもの立場にもなって考えられているかが不安に思います。

(山本委員) 私のところは私立幼稚園ですが預かり保育をしています。希望があれば午後6時まで預かっています。預かり保育というのは、先程学童保育でも言われましたがとてもいいところがあります。通常の保育は学年別のクラスですが、預かり保育になると縦割りになり、縦割り保育は別の素晴らしさがあります。子ども達も楽しんでますし、全員が母親の仕事の関係とは限りません。子どもが預かり保育に残りたいから残っている子どももいます。認定こども園はある意味では良いように思いますが、現実の制度として出来上がったときに、どこまでしっかり保証してくれるのかというところがあり、事業所側からするとなかなか踏み切れません。今は預かり保育で県の補助があるので何とかやっていますが、それが新制度になると、どこまで補助されるのかわかりませんので手を挙げたくても挙げられない。制度として認定こども園は非常にいいように言われていますが、現実にするというのはどこまで財政的に補助があるかが非常に不安です。

(会長) 今山本委員が言われたのは、多くの市町村の私立幼稚園が思っていることかと思いますが、実際、全国の私立幼稚園は預かり保育や長時間保育をやっているところが多いです。この制度に踏み切れるかというと、金銭面も国がはっきりしていないところがあるので、なかなか手を挙げにくいですね。今私立幼稚園は県の私学助成がおりていますので、市の教育委員会ではなく、県と結びついています。小学校は公立幼稚園とはつながりやすいですが私立幼稚園とはつながりにくいというのは、もともとの属性が市役所との関係性が低いのが私立幼稚園の制度上の問題としてあって、その辺もいい意味で変わっていくのが好ましいと思います。27年度からの国が言っている認定こども園は、今やっているものとは特に財政的なことが違います。幼稚園は幼稚園としての補助金が残る、保育所は保育所としての補助金が残る、その代わり事務は別々なので二世帯同居のような形だったのが、これらを一緒にすると効率はいいがその分補助金はどうなるかというのが現

実です。そこが解決しないことには難しいところです。一方で今後働きたいという方が芦屋市の傾向と対策を考えると閉塞感を持っている方もいるかもしれません。その方々が他市に流れ込んでいく可能性もあります。その辺は子どもを育てやすいまち、教育保育をしやすいまちにするために今後の見通しとしてどう計画を立てていくかということがこの会議も含めて芦屋市全体が問われているところです。結果、人がいなくなってしまうば問題ですし、今の質をどう保つかということもあります。認定こども園もそんなに歴史がないので、不安ですが、芦屋はどう考えるかということです。

(橋本委員) 4頁(1)の母親の就労状況ですが、フルタイムで働いている母親は、3、4歳児以上の方は20%前後で推移している。2歳児でフルタイムが23.9%、フルタイムで就労しているが、産休などで休業中が4.3%で28%を超えています。これが1歳児でフルタイムが30.9%、フルタイムで就労しているが、産休などで休業中が4.4%で35%を超えてくる。0歳児は育児休職等の方が多いのは理解できますが、いずれにしてもそれを足した数字も30%を超えてきます。このことから、お子さんの年齢によって母親のフルタイムでの就業状況が違うということをどう分析したらいいのかを考えています。もしかしたら世代の違いによって、新しい世代の1、2歳児くらいまでの母親がこれから子育てを始めようとしていると見てとるのがいいのか、仮にそうだとしたら5年後にはここに書いてあるデータが全く変わってしまう可能性があります。もし、0歳児は会社で産休育休がとれて、復職をしたらフルタイムでは働けないとあきらめて、仕方がないからパートで働き、2歳児以降特に不満もなくフルタイムをあきらめてしまうと分析をするのがいいのか、そこが不思議に思いました。1歳児でフルタイムの方が多いのに、41.4%しか定期的な教育・保育を利用できていない。ここから考えると1歳児をどう保育するかというところに大きな転換点があるか、大きな問題が含まれているように思います。関連するかわかりませんが、14ページ(1)の病児・病後児保育事業で、1歳児が病気や怪我で事業を利用できなかった方が非常に高い数値になっています。ここにも着目した今後の事業展開も考えなければいけないかと感じました。父親が就労しているのが90%以上で、集計のデータの意味から外す手法自体はわかりますし問題はありますが、私自身就労しながら当事者として子育てに関わっていた立場から言いますと、父親の支援はどうなのか、父親が子育てに関われる家庭とそうでない家庭とでどんな違いがあるのか、議論をしていただく必要があると思います。

(下岡委員) 実態から言いますと、私は公立保育所ですが、1歳児の見学が非常に多いです。毎日のように0、1歳児の見学の対応に追われて、1週間に十何人も来られることもあります。みなさんはいろいろ回って選ぼうと思っています。でも現実はあるか入れないかで、選べるというレベルではないです。どの保育所も1歳児の見学が本当に多いです。1歳児をどうするかが大きな課題だと現場にいて感じています。

(北川委員) 私は出産後、仕事を辞めました。子どもが1歳になるまで育休をとって復帰する方が多いと思いますが、そこでうまくいって3歳児になるくらいまで時短などが使える企業もあるのでそこが多いのかと思います。子どもの体調不良などで抜けることも多いので会社との兼ね合いもあると思いますが、働きにくくなったから辞めてしまう人もいますので、1歳児以降が減っているというのものもあるのかと思います。

(橋本委員) 不本意にフルタイムを辞めている人もいるわけですね。

(北川委員) 子どもを見てもらふ人がいないとか、お迎えに行かないといけないとか、そのときに抜けやすい企業と抜けにくい企業があると思うので、その中でも働いたり、働きにくくて辞めてしまったり、子どもと一緒にいたいから辞める方など色々なパターンがあると思います。

(下岡委員) 現実的には、朝は父親や母親が送ってきて、お迎えは祖父母という方も増えています。実際はお迎えの時間に帰れないとか、子どもが体調不良でも休めないのでも祖父母に預けるなど、祖父母の近くに住むために芦屋市を出る方もいます。祖父母がこちらに来る場合もありますが、第三の手がないとフルタイムで働くのは難しいという現実があります。

(飯田委員) 芦屋市だけの現状ではなく、社会や企業の雇用側の問題もありますので、芦屋市のこの子育て政策で今の問題全てが解決するわけではないと思いますが、働きたいという気持ちを持たれているのであれば、続けていかなければいけないと思います。私のところも1歳児が入りたいのに入れないというお子さんはたくさんいます。保育園の職員の中にも産休育休をとって続けたいという方もいます。園長という立場から言うと、非常に厳しい就労時間形態ですがその中でローテーションを組んで職員の和を保ちながら、企業も努力をしていかなければならないということで苦労があると思います。

(金光委員) 私は公立幼稚園の立場ですので、逆に公立幼稚園は2, 3歳児で見学したいという方がたくさんおられます。なぜかという、あと1年家でみるか、どこかの私学に行くかで大きな選択を保護者はされます。本年度から公立幼稚園も午後4時半までですが預かり保育をしています。フルタイムの方はまだ少ないですが、パートの方は増えているのは事実です。その中で、祖父母の方がお迎えに来たり、小学校に行ったらもう少し働こうと思うという方が多いのも事実です。2, 3歳児の行き場がないというのがありますが、当園では子育てセンターが木曜日の午後、小槌広場というものをされていますが、その方たちからも2, 3歳児の行き場がないという話は聞きます。幼稚園としてできることとして、保育時間帯に在園の子ども達とふれあう場を提供したり、園庭開放などをしたり、3歳児限定でということもしています。幅広いろいろなニーズが今の芦屋市の現状では多いということを知っていただきたいです。

(安里委員) 4ページ(1)の就労についてですが、実際小学校くらいになるとフルタイムが減ってきます。私は実際働きながら保育所に預かっていただいています。小学校になったらできるかなというのは常に考えていました。小学校になったら祖父母に預けにくい、子どもの勉強のことやいろいろな問題があったりするので、小学校になると母親が家にいるお子さんと働いているお子さんに差ができてはじめると思います。家でみれないから成績が下がる、塾に行けない、習い事が少ない。幼稚園に行っている子は早く帰ってきて習い事に行くが、保育園の子は習い事が少ない。そういう不安をずっと抱えていて、小学校に行っても仕事優先にできるかなと思います。小学校に行って辞める母親も多いのはその辺の兼ね合いもあると思います。それに小さいお子さんの母親はまだ若いので、小学校になると母親も歳をとり、フルタイムで働いて家事もして、子どもの深刻になりつつある問題も抱えて、体力的にも精神的にも不安になると思います。私も最初の子どもが0歳児のときには独身時代と同じペースでしていました。そこで疲れてしまうので、自分の仕事を少しずつ減らしていかななくてはいけなくなります。それが不本意か

どうかはわかりませんが、母親の体力も減ってくるので家で母親という職業を続けていかななくてはならないという意味で、年齢があがってくるというのはフルタイムで働くかどうかに関わってくると思います。単純に社会がどうか企業がどうかというだけの問題ではなく、家庭での母親の役割に対する年齢の増加もあるかと思っています。

(橋本委員) 私は事業所団体の代表ですので、だからこそ優秀な女性労働力が行政のサポートによって、全部でなく一部だけでもフルタイムで働けるような環境を整えれば事業者にとってはありがたいと思いますし、意欲のある母親にとっても非常にありがたい話ではないかと、もしかしたら今回の議論のポイントになるのではないかと思います。

(会 長) 介護の問題や家事の問題、子育ての問題等年齢によっていろいろな問題も出てきて、そこを選択肢として年代によって選べるのかということが大事だと思います。また、父親が一緒にしてくれる家庭なのか、一人親なのか、家に帰ったらおばあちゃんが家事を全部やってくれる家庭と、そうでなく全部自分でやらなくてはいけないのとは全く違います。そこも含めて続けたいけど辞めたのか、辞めたくて辞めるのかだと全く意味が違うので、そこが芦屋の問題そのものだと思うので、行政としてはどこが支援できるのかできないのかが最終的にみるところだと思います。

(2) 基準検討部会、支援事業部会に出た意見(報告)

(会 長) 基準検討部会、支援事業部会の報告をお願いします。

【事務局より基準検討部会、支援事業部会の報告】

(3) 芦屋市子ども・子育て支援事業計画素案策定(協議)

(会 長) では、説明をお願いします。

【事務局より資料説明】

(会 長) ありがとうございます。現在のところ計画の基本的な考え方は資料3の5「芦屋市次世代育成支援対策推進行動計画<後期>子育て未来応援プラン」が現在芦屋市で進行しているもので、これが平成26年度までのものになります。7「芦屋市子ども・子育て支援事業計画」が、国が平成27年度以降に施策とアンケートを反映しつつ、子ども・子育て支援事業計画を作るように各市町村に降りてきているものです。その素案を今から話をしていくということでもいいでしょうか。では資料3の説明をお願いします。

【事務局より資料説明】

(会 長) ありがとうございました。この提案は、おおむね左の次世代行動計画を国の施策にのせつつ連動させていきたいということですね。何かご意見ご質問があればお願いします。7の右の部分は、後ろに(必)や(任)というのは三法で定められた子ども・子育て支援事業計画に入れなければいけないもので、芦屋市は任意も全て入れるということで押さえてくれていますので、抜けている項目はないか

と思います。

(金光委員) 認定こども園の話が出ましたが、市民の皆様は認定こども園がどういうものかわかってもらえていないということと、アンケートを作る前に色々な話があったかと思いますが、この会議は広い視野で考えなければならないことはわかっていますが、私立か公立かそういうことも市民の皆様にとってはよくわかっていない。芦屋市全体で子ども達のことを考えるときに、いろいろな人の考えがあると思います。芦屋市でも地域で差がありますので、地域に応じたことを考えていただきたいと思います。また、皆が同じ場所で教育・保育を受けて小学校へ送り出すという意味では、年齢的に小さいお子さんは保育所でその後は幼稚園や認定こども園になるなど、芦屋ならそういう方法もできるのではないかと思いますので、今後の検討事項に入れていただけたらと思います。

(会 長) 乳児を保育で、幼児を学校教育の位置づけで幼稚園でという案もあるということですね。今ある施設でしようと思うととても大変なことになりますが、今ある設備を活用しようということにはなるかと思います。

(山本委員) 0, 1, 2 歳児は乳児保育園に任せて、3, 4, 5 歳児は幼稚園が預かりも含めてしっかりやっていくという形は可能ですし、現実にも今、近隣のさくら保育園の子ども達が幼稚園に遊びに来るということもしています。ただ、私立幼稚園の場合はほとんどが芦屋の子どもたちですが、西宮と神戸の人もあるので、このことを忘れないようにしないといけません。

(下岡委員) 逆に芦屋市から市外に出ている方がどういう理由で出るのか知りたいですね。

(山本委員) 幼稚園だけでもバスは何台も走っていますから。

(下岡委員) その方もアンケートに幼稚園か保育園で答えていますよね。

(会 長) その辺はまた分析できたらと思います。資料2に関しても、新しい事業計画を立てるうえでの、現在の次世代計画の評価にもなるので、数字として一つの結果が見えるものなので、少なくとも残さなくてはいけないものも当然あるかと思います。貴重なデータがあって、根拠があって次の計画を立てるということは大事ですので、必要なデータがあれば事務局に言っていただけたらいいかと思います。今日は原案を見たというだけでこれに関しては十分な協議ができなかったのでまた次回になりますが、次の計画の基になりますのでまたよく見ておいてください。

(加納委員) 少子化対策では人が足りないとか子どもの居場所が足りないとか共通した課題です。地域で安心して子育てのできる環境作りができればもっと子どもを産む方も増えるのではないかと、少子化対策はそこから始まっているのではと思います。私も県の会議に出っていますが、そこで挙がったのは、例えば生後一ヶ月の子どもを持つ親、幼稚園に上がる前、小学校に上がる前、その時期に教育・保育について相談する場所がない。教育委員会ではなくもっと身近な場所に教育・保育の問題を一括して気軽に相談できる場所が欲しいという声が出ていました。このスキームには、相談支援が入っていないと思いました。

(会 長) 子育て支援という言葉もたくさんありますが、利用される方にとっては何かなんだかわからない状況なのだと思います。介護ならケアマネージャーがいます。教育・保育は窓口として選択する前の情報提供がないと選べないので、たくさんメニューがあるという情報発信が大事かと思います。

(三柴委員) 私自身、子育てをしている世代ですので、そういった面から今後発言させていただこうと思います。

(会 長) ありがとうございます。事務局から連絡はありますか。

(4) その他連絡事項

【事務局より事務連絡】

(会 長) これをもちまして第3回芦屋市子ども・子育て会議を終了いたします。ありがとうございました。

<閉会>